

## 令和元年度 第2回行政評価委員会 議事録要旨

日 時	令和元年12月16日（月）午後3時30分～午後5時	
場 所	市役所 本庁舎 災害対策本部室、第2市長応接室	
出席者	委 員	横山幸司委員長 齊藤由里恵副委員長 磯貝禎之委員、岩井洋二委員、篠田遼一委員、松岡万里子委員
	事務局	副市長、企画部長、行革・政策監、経営管理課長、 経営管理係長、経営管理係担当
次 第	1 市民憲章唱和 2 委員長あいさつ 3 副市長あいさつ 4 議題 (1) 公開行政レビューのアンケート結果について (2) 行政評価報告書について 5 行政評価報告書の提出について	

1 市民憲章唱和

2 委員長あいさつ

3 副市長あいさつ

4 議題

(1) 公開行政レビューのアンケート結果について

(事務局説明)

・委員長

アンケート結果から、市職員など関係者が多く、傍聴者も少なくなっていることがわかります。しかしながら、定期的な外部評価は必要だという考えを皆さん持っていていらっしゃいますし、見直すべき事業はもう無いというふうには思っていないと思います。従いまして、何らかの形で外部評価を続けていただきたいと思いますが、この公開型の行政レビューについては見直しの余地があるのではないかと思います。委員の皆さんのご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

・委員

私自身も例えば一市民だったら、ラインでお知らせが流れてきても多分行かないだろうなと思います。別に興味がないわけではないのですが、この時間にそこに行って、これを聞いて過ごそうという、そのインセンティブには至らないかなと思

います。事業の中身はそれぞれ大事なものだし、重要だなと思うところもありながらも、市民はそこまで積極的に、そこに対して熱量がないとなかなか行かないだろうと思います。市民にいろんな多種多様なことをやっていると伝えることはすごく重要で、それによって、市民評価員で公募委員だった方とまた違う会議でお会いすることがあり、そういうふうにつながっていくのも素敵なことですし、他の自治体に比べて若い世代が多いというところもすごく素敵なことだと思いました。ただ、公開行政レビューをやるならば、もう少しインパクトがある事業も一つぐらい入れておくとか、後はまた違う形でできることもあるかもしれないなというところで、今後はこういった市民とどこを目標にしていくか、多くの人を巻き込むのかそれともある一定の層で深く議論をしていくのかといった、どこを目指していくのかというところで、どういう人を対象にするかというところが決まって、またやり方というところが決まっていくのかなと思いますので、委員長がおっしゃられたようにやっぱり今見直すというか、また新しいステップにいくいい機会なのかなというところも感じました。

・委員

2年間やらせていきいただきましてかなり安城市のこともよくわかってきたと思っておりますけれども、ここに取り上げられるテーマ、最初に6つ出てまいりましたけれども、これが市から提案されたテーマということになっているわけで、本来的には市民の方からこういうテーマで行政評価をやったらどうかというのが出てくるのが本当じゃないかなと思っております。そこまで行政のこと、あるいはどんなことをやっているかも全然わからないという人も多いかもしれませんが、やはり市民の声が上がったものを取り上げてやっていただくと、もう少し盛り上がるのではないかなという気はいたしました。

・委員

同じになってしまいますけれども、出てきたテーマに評価というよりも、中身を知るという意味では、いろいろよくわかるのでいいのですが、ただ、齊藤委員がおっしゃるように、時間を割いてまで傍聴に来るかというのを考えると、市民の関心が今一つそこに向いていないのかなと思いました。アンケートで今後取り上げてもらいたいテーマにあんくるバスや教育、子育て、ケンサチの事業などがありました。市民側が思っている視点を取り入れて、テーマの選定やこういうことについて議論がしたいというような、事前にもっと広報を使うとかして広く市民の皆さんの御意見をいただけるような土壌があって、一つについて何か集中して、検討してい

くというような、市民の方から出てきたテーマを絞り込んで時間をかけて皆さんの意見もいただき、みんなで議論しようという進め方でまた違う行政評価というのか、一緒に事業を検討してつくっていく協働の視点に切りかえていくという形がいいのではと思いながら、どの事業も議論がなかなか深まらないのかなという感じで参加していました。

・委員

去年もこのようなアンケートをみて、市の職員の方以外の方が増えたらいいですねというような話があったかと思いますが、2 ページ目に書かれているとおりに、多分本当に評価が必要な事業がこの場に上がらないだろうから不要という言葉が出てきているということは、やはり今皆さん方がおっしゃったように、市から言われたことを評価するだけのところになんで行く価値があるのかというところが多分あるのではないのでしょうか。一方で去年はふるさと納税という自分たちの利益に直結することが議題だったので、人が多かったのかなというふうに考えるのが自然かなと感じています。去年もありましたけど今後評価した方がよいと思われる事業がありますかと聞いているので、この中から1つは選ぶのが、市民の心情に配慮したことなんじゃないかなというような気はします。ただ一方で、傍聴者を増やすことが目的ではなく、適正な、本当にやるべきことは続け、やめることをやめるというような判断をするのが必要なので、その中で何をとり、何を探していくかというのは、皆さんがおっしゃられたように市民の意見をある程度反映した上で、どの事業を選定するかというところまで踏み込んでもいいのではないかなというような気はします。

・委員

6年間ありがとうございました。いろいろ勉強になりました。6年前の頃を思い出してみると、事業数が1日5事業もレビューする年もあり、その時は、1次選考で事業数がかなり多くて、こんな事業をやっているんだと素直に驚きました。そして、その中から自分の興味があるものを選べたという点で、やっぱり議論になったのかなと思います。今の6事業から3つ選んでレビューをやるという事は、その点では不十分な気がします。この公開行政レビューが何を目的にしているかというポイントが絞りきれないのかなと感じました。昔は、議論する事が目的になっていたと思うのですが、ここ数年は開催する事が目的になっている感じがします。いま一度、皆さんで、このレビューは何が目的かという事を議論するといいのではないかなと思います。

- ・委員長

何か事務局ありますか。

- ・事務局

委員の方からいろいろ御意見いただきましてありがとうございました。どのご意見も心に沁みるものでした。特に市民の方がレビューに行くためのモチベーション、インセンティブについても非常におっしゃるとおりだなと思いましたが、取り上げるテーマですとか事業に関しても、正直、我々事務局のほうもかなり窮していたというのが事実であります。事業を市民の方に選定していただいているかどうかという御意見もありましたが、平成 23 年度から事業仕分けということでスタートしましたが、当時は、事業を市民の方に選んでいただいていたと記憶しています。事務事業調書というものとセットにして市民の方に事業を見ていただいた上で、事業仕分けの対象としてほしい事業についてということで投票をしていただき、そのうちの上位から幾つかの事業を対象に選定することをしておりました。そういった形で選んでいただいていたこともありまして、恐らく当時は傍聴の方も多かったように記憶しています。そこからだんだん公開のもとで実施するということが事業費ですとか、事業のわかりやすさということを私どもなりに考えて選択していくと、なかなか委員の方にお選びいただく事業がなくなってきてしまったというのが現状の正直なところで、公開行政レビューを続けてまいりました。外部評価については、やはりアンケート結果から見ても続けていくべき、委員長のお言葉にもありましたように見直しの必要がない事業はないというところもございますので、外部評価という側面では当然必要性を感じておりますが、やはり公開行政レビューというものに関しては、一度振り返る必要があると感じております。

- ・委員長

何らかの手法の検討をしていただきたいという、このことは次の行政評価報告書の最後のところにも少し盛り込んでいただいておりますので、そこでもお話をしたいと思いますが、アンケート結果につきましては以上とさせていただきます。

## (2) 行政評価報告書について

(行政評価委員会による報告書の修正)

## 5 行政評価報告書の提出について

(行政評価委員会から市長へ行政評価報告書の提出)